

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第3章 パート3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録第3章。

父よ。この学びを祝福して下さい。

私たちに聞く耳と見る目をお与え下さい。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

ラオデキヤ教会について手短かに説明します。

①ラオデキヤは非常に繁栄した裕福な町で、金融機関の中心地、当時この地域で最も富んだ町でした。

また、裕福なだけでなく、エンターテイメントも盛んで、ラオデキヤに行くと、今もローマのサーカスが常設されていた3万人収容の公会堂が残っています。

人々は裕福で、エンターテイメントのことで頭がいっぱい。

②ラオデキヤには、姉妹都市ヒエラポリスから始まる水の供給ラインが市内を通過していました。

ヒエラポリスには温泉が湧き出していたので、そこから熱湯を引いてくるのです。

計画では、ヒエラポリスからラオデキヤ市内まで、熱湯のまま引けるはずでしたが、技術者が少し誤算をしたために、到着する頃には熱湯がぬるま湯になっていました。

③政治的には、大変抜け目のない町として有名でした。

それは、当時としては珍しく、軍事的に自己防衛ができない場所に町が建てられており、ラオデキヤが生き残るためには、結果的に常にどこかと政治的に妥協する必要があったのです。

④ラオデキヤは世界的に、何よりも眼科医療で有名でした。

目の様々な問題に有効な、大変貴重な目薬が町で製造されていたからです。

さて、前回のフィラデルフィア教会とは違って、このラオデキヤ教会に対しては、褒められることがひとつもありませんでした。教会はめっちゃくちゃで、混乱状態だったのです。

また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。(黙示録 3:14)

これまではどこも、“テアテラにある教会”(the church at Thyatira)や“スミルナにある教会”(the church at Smyrna)と言われていたのに、ここでは“ラオデキヤの教会”(the church of Laodicea)。

言い換えると「彼らの教会」「彼らによる教会」でしょうか。

事実、ギリシャ語で『LAOS (ラオス)』『LAITY (ライティ)』の意味は『人々』

そして『DIECE (ディケイ)』の意味は『決断・支配』

つまり、『人々が決める・人々が支配する』教会。

ここは、主が運営し導く教会ではなく、人によって運営され指導されていたのです。

主はそれをご存知で、手紙の最後に、教会の外で扉を叩きながら言っています。

「あなたがたの教会に、わたしを入れてくれますか?」「ここは、あなたがたのものだ。」

ラオデキヤ教会と人々は大人気で、とても、とても、とっても裕福で、この地域で好感を持たれていました。

彼らは、「我々は何でも持っている。乏しいものは何もない。」と書いていましたが、

イエスは「あなたがたは何も分かっていない。」

何故でしょう。

ここは、人のための教会、人によって運営される教会。

人がすべてなので、人気を得るために人に妥協していたのです。

そしてこれが、終末時代に起こる事です。

ラオデキヤ思想がそこら中にはびこっています。

アメリカにも同じような教会がいくつもあって驚きます。

巨大で立派な礼拝堂はあるが、イエス・キリストの教えに沿わず、ポジティブ思考をまき散らす。そして素晴らしいイベントの数々。

いい気持ちになることをポジティブに語り、人々はそれを聞いて拍手を送る。

「神はみんなを愛しているよ！だから笑って！」「大丈夫だよ！」そんな言葉ばかり。

けれども彼らは、『私たちは、神に反逆してきた罪人であることを認め、助けを求め、悔い改めて心を開き、イエス・キリストが主であり、救い主であるということを受け入れなければ地獄へ真っ逆さまなのだ。』という肝心なことは教えない。

福音が伝えられていない。

これがラオデキヤの状況でした。

『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。(黙示録 3:14)

どうしてイエスはご自身を“アーメン”だと言われたのでしょうか。

“アーメン”とは「その通りになりますように。」

「その通りになる、確信のある、絶対的なもの」

気の抜けた、中身が空っぽなものではない。

「それぞれ自分のやり方で神を捜せば良い。神でも仏でもその他何でも、拝めばみな同じ。」

そうではなく、“アーメン！”

アーメンである方、忠実で、真実な証人 (黙示録 3:14)

“証人”はギリシャ語で『MARTUS』

ここから英語の『MARTYR (殉教者)』が来ています。

証人とは、まさしくイエスのように生きた人。イエス・キリストを心底愛したために彼のような仕打ちを受け、十字架につけられた人のこと。

ラオデキヤの人たちは「苦しみについては語らないでくれ。ただポジティブなことだけを話して、楽しく笑っていたいのさ。」

苦難について語らず、考えたくもない人たち。

しかしイエスは「それがわたしだ。」と言われるのです。

**アーメンである方、忠実で、真実な証人 (黙示録 3:14) というだけでなく
神に造られたものの根源である方がこう言われる。(黙示録 3:14)**

ここ、よく聞いて下さい。

ここはカルト教徒が度々用いる箇所ですが、私がここを強調した理由はそれだけではありません。

イエスは何故、終末時代のこの教会、集団に対してこのように言ったのでしょうか。

終末時代には、進化論の問題はととても大きなものとなります。

現在、楽しい教会に通う素晴らしい家族、アメリカの良い人々が乗っている車の後部に貼られている魚のマーク（*魚のマークはクリスチャンであることを象徴）、信じられないことに、その魚の体から小さな足が生えているのです。

『ダーウィンの魚』

本当に悲しいですね。

今、典型的なアメリカ人家庭で、親が子供に何を話し、行っているかは明らかです。

「私たちは元々アメーバだったと信じています。」

「子供たちにも、元はアメーバだったと教えています。」

「人間はアメーバのように生きて、アメーバのように死んでいく。

人生に意味なんてない。死んでしまえばそれで終わり。」

本当に悲しい事だと思います。

「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。

わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。(黙示録 3:15)

このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。」(黙示録 3:16)

これはまるで目に見えるような、かなり厳しい言葉です。

「ラオデキヤの人たち。ニコニコ笑顔の宗教的な信仰者たち。

わたしが創造主であることを疑い、証人になるということは迫害され、卑しめられ、試練や困難が伴うということも分からず、御言葉がアーメンであり、絶対であることを信じていない人たち。あなたがたは、なまぬるい！」

面白いことに、“ぬるま湯”が街中を流れていましたね。

彼らは、熱湯は色々役に立ち、冷水にはリフレッシュ効果があるけど、ぬるま湯は…
ということを知っていました。

私たちも知っています。伝道した時にそれが分かります。

周りの人たちに真理を伝えた時、激しく同意して共感するか、大反発、反論、口論に発展するか。

でも、私が耐えられないのは、霊的真理、福音を伝えた時に、「ふーん。そうなんだあ。」

「そっかあ。君はその道を見つけて良かったね。何でもいいけど、君も僕も、みんなが幸せになればいいよねー。」

こういう人たち。このラオデキヤ思想の人々。これが最悪！

わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。

わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。(黙示録 3:15)

この、何でも OK というぬるい考え方はいけない。

わたしの口からあなたを吐き出そう。(黙示録 3:16)

あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って

(黙示録 3:17)

ラオデキヤ教会は裕福で益々財を成し、物質的にも豊かで何でも持っていました。

「我々は豊かだ。乏しいものは何もない。財があり繁栄していて人気もあり、みんなに受け入れられて尊敬されている。もう他に必要なものは何もない。」

しかしイエスは、それは違うと言います。

「あなたがたは理解すらできていない。」

実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

(黙示録 3:17)

イエスがこのハッピー集団に言った事は、アメリカのクリスチャンの大半に向けた言葉だと私は思います。

「あなたがたは罪の事実、悔い改めの必要性、キリストの十字架、この世ではなく永遠のために証しをし、立ち、生きること、天に心を向けることについて語らない。」

「あなたがたは知ることすらできていない。」

「あなたがたは富んでいると思っているが、実は貧しい。」

成功者だと思っているが、実は哀れだ。」

「だから、わたしはあなたに忠告する。(黙示録 3:18)

その惨めな状態をどうすべきか教えよう。」

特記すべき忠告が三つあります。見てみましょう。面白いですよ。

一つ目。「火の中に入りなさい。」

豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。(黙示録 3:18)

“火で精錬された金”とは何ですか。聖書にありますね。

ペテロはそれを何だと言いましたか。

信仰の試練は、火を通して精錬されてもなお朽ちて行く金よりも尊い(第1ペテロ 1:7)

聖書時代、精錬工は金を集めて火で熱し、ドロドロになるまで溶かし、不純物が燃えてなくなるまで混ぜ続けました。

そして親方が、溶けた金に自分の顔が映るのを見て、その完成を判断したのです。

イエスは精錬工の親方。

主は私たちの中で働かれ、私たちを精錬される。火の中で。

ラオデキヤの人たちは肉に属していて不純でした。

皆さん、自分が自己満足に陥っている、或いは、なまぬるいと思うなら、イエスの忠告を聞いて下さい。

これはとても簡単で真実なことです。

わたしは忠告する。火で精錬された金をわたしから買いなさい。(黙示録 3 : 18)

火の中に入る。

礼拝に参加し、分かち合い、伝道する。

燃えるミニストリーに再び関わろうとすぐに決意して下さい。

意地悪だから、火をつけて、あなたが焼き尽くされるのを見たい神ではありません。

あなたを創られた神は、あなたの父として、本当にあなたの心を暖め、力を与えるためにそうするのだと言われます。

二つ目。

また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。(黙示録 3:18)

“白い衣”は聖書の中に何回も出てきます。

イザヤ書 61 章、ルカ 15 章、他にも沢山。

主がわたしに救いの衣を着せ、正義の外套をまとわせ (イザヤ書 61:10)

私たちはキリストの義の衣で覆われているのです。

ちょっと誰かを喜ばせるために何かをする、それだけでは足りません。

それはラオデキヤ思想。

彼らは立派な身なりをしていました。殊にラオデキヤ産の黒羊から刈り取られた、特産の羊毛で作られた衣は、その艶やかな黒がアジア地方全域で非常に有名でした。

「あなたがたには白い義の衣が必要だ。」

主の恵み! 恵み!! 恵み!!!

私たちの義はみな、不潔な着物のようです。(イザヤ書 64:6)

私たちが行う全てのこと、“良い行い”は黒い。「あなたの義、働き、力は…」

主は言われます。「わたしが与える衣を受け取りなさい。」

恵み。主からの無償の贈り物。

「主よ。私は罪人です。主よ。私を覆って下さい。」「主よ。あなたの愛を下さい。」

「私がしたのではなく、恵みに立ち返るために、すべて、あなたが私にして下さったのです。」

三つ目。「医者に助けを求めなさい。」

また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。(黙示録 3:18)

ヨハネ 9 章で、イエスは生まれつき盲目だった人の目を癒されましたね。

その人の目に泥を塗り、シロアムの池に行って洗うようにと言われました。

彼は行って、言われた通りにして癒された。

盲目の目に泥を塗り、洗い流すようにと言った同じ方が、今度は、「目薬を買いなさい。」と言っています。

「あなたは見えていると思っているが、霊的に完全な盲目だ。」

さて今日のメッセージで、何だかすっかり打ちのめされた気分だと感じていますか。

イエスは、どうしてあなたがそう感じるのかを 19 節で率直に説明しています。

わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。(黙示録 3:19)

だから、「わたしも吐き出されるのか!?!」「私はそうではないと思っていたけど、実は

哀れで、盲目で、惨めなのか!?!」「これは大変だ!」と思っているなら、イエスは、

「それでいい。それこそが、わたしがあなたをととても愛している証拠だ。」と説明し、それから奨励しています。

だから、熱心になって、悔い改めなさい。(黙示録 3:19)

熱心になって、悔い改める。

中には、生まれた時から教会に行っていながら、悔い改めについて、罪について、地獄があるという事実についてのメッセージを、一度も聞いたことのない人がいます。

私たちが間違いを犯したため、その身代わりとなって、キリストが十字架につけられ殺されました。

だから、そこから方向転換して、主の方へ向かわなければならない。

悔い改めて、主に立ち返る。向きを変える。

アメリカの繁栄している教会の多くが陥っている悲劇的な問題は、素晴らしい巨大な施設を所有し、あなたはそこに座って豪華なプログラムを楽しむが、悔い改めについては一言も聞くことがないということ。

「あなたは罪人で、救い主が必要だ。」「あなたに必要な正しい事、それは、今日キリストを受け入れること。」

主はこの教会に言われます。

「わたしはあなたを愛し、大切に思うからこそあなたを叱るのだよ。」

だから、熱心になって、悔い改めなさい。(黙示録 3:19)

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。

だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいつて、

彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。(黙示録 3:20)

「わたしはこの裕福で人気のある教会の外に立っている。わたしは中に入りたい。」
イエスは教会の中に入り、「自称クリスチャン」たちに語りたいと願っています。
もし私が開けるなら私の中にも入りたいと。
主は入って何をしたいのでしょうか。

わたしは、彼のところには行って、彼とともに食事をし (黙示録 3:20)

キリストの復活の記事が書かれている書の全てに於いて、主は、蘇った後に食事をして
していることを知っていましたか。いいですねえ。
蘇った後現れる度に、パンを裂いたり食べたりしている。
そしてここでもまた、この教会、皆さんと私に向かって「あなたが個人的に心を開く
なら、わたしは入って共に食事をしよう。」と言われるのです。
主に心を開くなら、主は天を開いて下さいます。

勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。

それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。
(黙示録 3:21)

「あなたがわたしに心を開くなら、わたしはあなたに天を開こう。
そして、わたしと共に座り、来たる王国を治めるのだ。」

耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。』(黙示録 3:22)

数十年前にドイツの大聖堂で、古い教会の石壁に何世紀も前に刻まれた、興味深い碑文が発見されました。
わたしたちの主イエスを語っています。
これを紹介して終わります。
よく聞いて下さい。

『あなたはわたしを主と呼ぶがわたしに従わず、
わたしを光と呼ぶがわたしを見ない。
わたしを道と言うがわたしを歩かず、
わたしをいのちと呼ぶがわたしを選ばない。
わたしを知恵と呼ぶがわたしに倣わず、
わたしを美しいと言うがわたしを愛さない。
わたしを豊かと言うがわたしに求めず、
わたしを永遠と呼ぶがわたしを捜さない。
わたしを高貴と言うがわたしに仕えず、

わたしを恵み深いと言うがわたしを信頼しない。
わたしを力と呼ぶがわたしに敬意を払わず、
わたしを義と呼ぶがわたしを恐れない。
わたしがあなたを裁いても、わたしのせいではない。』

説得力がありますね。

ラオデキヤの人々は“敬虔なクリスチャン”でしたが、イエスをモデルやマスコットのように扱っていました。

イエスはそんなものではなく、私たちの主人であり、そうであることを教会に、あなたや私に求めているのです。

「主よ。私たちの心にお入り下さい。あなたの御心を行って下さい。
そして、完全に私たちの主となって下さい。」

主が全ての創造物の根源であるとわきまえ知り、主はアーメンである方、絶対なるお方、神学的議論の余地がなく、私たちの体の全ての細胞の一つ一つも主のものであると私たちが言うなら、主は私たちが忠実な真の証人と見て下さり、常に燃やし続け、この終わりの時代に最大限に用いて下さいます。
それが私の祈りです。

そういうわけですから、兄弟たち。

私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。

あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。

それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

この世と調子を合わせてはいけません。

いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

(ローマ 12 : 1 - 2)